

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会関係府省庁連絡会議（第2回）

議事録

日 時：平成26年10月3日(金) 13:00～13:10

場 所：総理大臣官邸4階大会議室

出席者：

議長	内閣官房副長官（事務）	杉田 和博
議長代行	内閣官房2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長	平田 竹男
副議長	内閣官房副長官補（内政担当）	古谷 一之
	文部科学事務次官	山中 伸一
構成員	内閣官房副長官補（事態対処・危機管理）	高見澤 將林
	内閣広報官	長谷川 榮一
	内閣情報調査室内閣審議官【内閣情報官 北村 滋 代理】	梶田 好一
	内閣法制次長	近藤 正春
	復興庁事務次官	原田 保夫
	内閣府事務次官	松山 健士
	総務事務次官	大石 利雄
	法務事務次官	稲田 信夫
	外務事務次官	齋木 昭隆
	財務事務次官	香川 俊介
	厚生労働事務次官	村木 厚子
	農林水産事務次官	皆川 芳嗣
	経済産業事務次官	立岡 恒良
	国土交通事務次官	本田 勝
	環境事務次官	鈴木 正規
	防衛事務次官	西 正典
	警察庁次長【警察庁長官 米田 壯 代理】	金高 雅仁
	金融庁総務企画局総括審議官【金融庁長官 細溝 清史 代理】	三井 秀範
	消費者庁長官	坂東 久美子
オブザーバー	内閣危機管理監	西村 泰彦

【杉田副長官】

ただ今から、第2回2020年オリンピック・パラリンピック東京大会関係府省庁連絡会議を開催いたします。

本日は御多忙の中ご参集いただき、誠にありがとうございます。今後、私の方で進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いします。

まず、会議の開催に当たり、私から一言申し上げます。

昨年9月のI O C総会において、2020年東京大会の開催が決定してはや1年が経ちます。

先月30日には閣僚会議が開催されまして、これまでの政府の取組について下村大臣から報告が行われますとともに、安倍総理から、「閣僚全員がオリンピック・パラリンピックを担当しているという気持ちで、取り組んでいただきたい」という指示があったことはご承知だと思います。

東京大会は日本全体の祭典でもあります。「ホストシティ・タウン構想」など自治体と連携した地域活性化の取組や、被災地を走る聖火リレーなど復興の後押しとなる取組をより一層充実することが求められているわけであります。

また、大会の成功に向けては、何と言っても万全のセキュリティというものが不可欠です。本日の会議において内閣危機管理監をトップとする「セキュリティ幹事会」を設置し、政府一丸となってテロやサイバーセキュリティ対策に取り組んでいくための体制を構築することと致しております。

来年2月をメドに大会開催基本計画が策定される予定でございまして、いよいよ準備が本格化するわけであります。政府においても、組織委員会や東京都と連携をして、一丸となって取組を進めて参ります。

関係府省庁におかれては、次官の皆様のご指導により、施策を相互に連携し、横断的な展開を図るとともに、担当部局の施策を磨き上げていただきますよう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、議事に入ります。

一つ目は「大会開催基本計画の策定等円滑な準備に向けて国の対応が期待される事項」の進捗状況について、二つ目は「セキュリティ幹事会の設置について」になります。2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室の平田室長より説明願ひます。

【平田室長】

本年4月に開催されました第1回閣僚会議において、「大会開催基本計画の策定等円滑な準備に向けて国の対応が期待される事項」について、下村大臣から閣僚の皆様へ検討を願ひしたところでは、

これを踏まえ、安倍総理からも、政府の施策を総動員して取り組む旨の指示がありました。お手元の資料1に、この半年間の各府省庁の取組をまとめ、先月30日の閣僚会議で報告いたしましたので、ご説明させていただきます。

まず第1番目の「セキュリティ・安全安心」については、次の議事で説明しますが、関係府省庁によるセキュリティ幹事会などの検討体制を設置し、テロ対策に万全を期してまいります。

ページをおめくりいただきまして、「2. 復興・地域活性化」については、組織委員会、被災3県等との検討体制の設置や、「ホストシティ・タウン構想」を推進しております。

次に、この下の「3. 輸送」については、首都圏空港の機能強化や空港アクセスの改善、観客・関係者を円滑に輸送するためにオリンピック・レーンの具体化に向けた詳細設計などを進めております。

ページをおめくりいただきまして、3ページの「4. 外国人旅行者の受入」につきましては、東京大会を見据えた観光振興や、多言語対応の強化などを進めております。

この下にあります「5. バリアフリー」につきましては、鉄道の駅・空港における複数ルートのバリアフリー化などの検討を進めております。

ページをおめぐりいただきまして、4ページの「6. スポーツ」につきましては、オリンピック競技とパラリンピック競技のナショナルトレーニングセンターの共同利用化などの検討を進めております。

最後に、ページをおめぐりいただいて、5ページの「7. 文化・環境」につきましては、政府における文化プログラムや環境配慮の推進に向けた検討を開始しております。

以上、ご説明しました取組につきましては、各府省庁の努力により鋭意進められているものであり、皆様のご尽力に感謝申し上げます。

なお、資料1の10ページに、別添として、本年7月に開催されました、本会議の「東京都との連絡協議会 幹事会」における協議状況が、さらに参考資料2として、資料1でお示した「国の対応が期待される事項」の進捗状況に係る資料集及び施策一覧をお付け致しておりますので、参考としてください。

次に、資料2でございます。立候補ファイルにおきましては、「セキュリティについて閣僚級協議会で全体の調整を行う」こととしておりまして、オリパラ閣僚会議は、これに位置づけられております。

加えて、閣僚会議の下で、セキュリティに係る実務的な調整がしっかり行われるよう、内閣危機管理監が座長を務めるセキュリティ幹事会を、杉田副長官の決裁により、本日付で設置させていただきますので、この場で御確認頂ければと思います。

また、第1回幹事会を10月14日に開催する予定としており、テロ対策とサイバーセキュリティに関するワーキングチームの設置やシニアセキュリティコマンドーの登録について諮らせていただく予定です。

今後、組織委員会が大会開催基本計画を来年2月に策定する予定であり、大会準備がいよいよ本格化してきます。

政府におきましても、組織委員会や東京都と連携して、着実に大会準備を進めて行くこととしていますが、各府省庁のより一層のご協力が不可欠であり、引き続き、積極的な取組をお願いいたします。以上です。

【杉田副長官】

ただ今のご説明に対しまして御発言がある方はいらっしゃいますか。

それでは、参考資料3「ラグビーワールドカップ2019の準備状況について」文部科学事務次官からご説明をお願いいたします。

【山中文部科学事務次官】

ラグビーのワールドカップにつきましては、東京オリンピック・パラリンピックの1年前、2019年に開催され、第9回目となるものです。

日本は第1回目から参加しており、次回も参加することが見込まれます。

大会には20チームが参加し、48試合行われます。予選は4プールに分かれ、その中の2チームが勝ち残って決勝トーナメントに進むという形でございます。そうなりますと、試合の会場は全部で大体10か所から12か所ぐらいを予定しているところでございます。

その試合会場を決定するための開催都市選定が行われる予定であり、今月の14日から31日までに申請書を自治体から提出して頂き、来年の3月には開催都市を決定するということになっております。

また、サッカーのワールドカップでもそうでしたが、試合だけでなく、それぞれのチームが練習のためのキャンプ地を選定するということがあります。そのチームキャンプ地は、日本を入れて20か所必要になりますので、2017年度以降、キャンプ地も決めていくということでございます。

ワールドカップの観客数は、200万人を見込んでおり、オリンピック・パラリンピックの1000万と比較しても、かなりの規模ということになります。オリンピック・パラリンピックとともに、その前年に開催されますラグビーのワールドカップにつきましても同じような課題がございますので、オリンピック・パラリンピックと併せてラグビーのワールドカップについても対応頂ければ幸いです。

【杉田副長官】

ありがとうございました。御発言はここで切らせて頂きたいと思います。

東京大会に向けて、関係府省庁の更なる取組をお願いいたします。また、「国の対応が期待される事項」については、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室が引き続きこの施策の工程表を作成するなどフォローアップさせていただくということになります。

なお、本日の議事内容については、配布資料を含め内閣官房から公表することを予定しておりますので、ご了承頂きたいと思います。以上で本日の会議を終了したいと思います。

本日はありがとうございました。